

資料 3 (A)

周南市熊毛地域の国道 2 号  
4 車線化実現に向けて (案)

平成 2 4 年 月

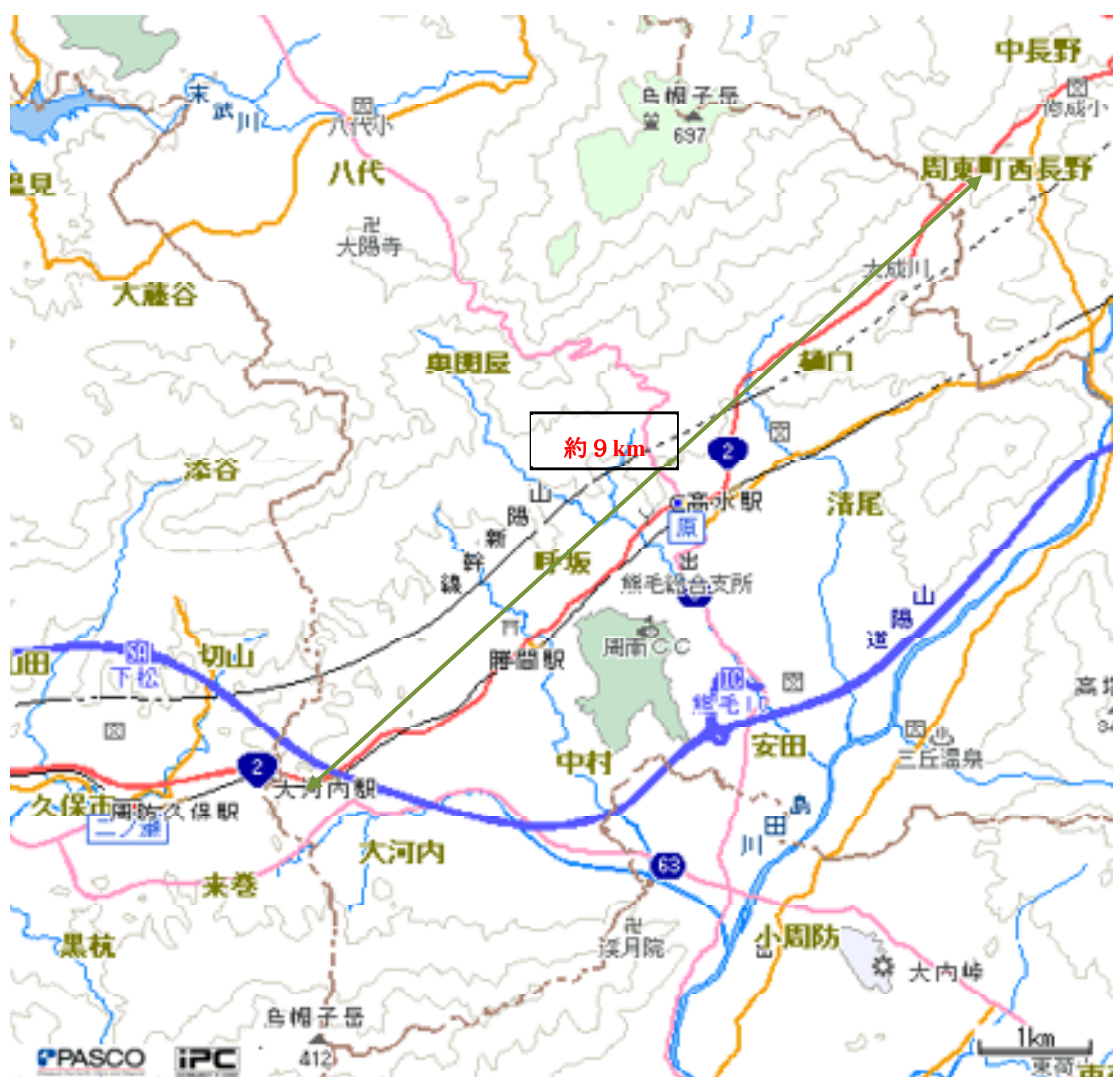
熊毛地域審議会

## 1.はじめに

本市の国道2号は、臨海工業地帯に沿って発展した東西の市街地を結ぶ大動脈であり、市民の日常生活及び経済活動の幹線として大きな役割を担っています。

熊毛地域の国道2号は、全長約9kmは交通量が多く朝夕の交通混雑が著しいにもかかわらずほとんどが2車線であるとともに、歩道が狭小・危険でありながら多くの児童、生徒が国道に接して登下校しております。

このことから、市民の安全・安心を守り、市民のいのちを守るとともに、「住みたい」まちにするため、全線4車線化と併せて歩道等の整備を早急を実現することを目的とします。



## 2. 現 状

### (1) 国道2号

国道2号は、熊毛地区東部でみると、平成14年に「熊毛町樋口登坂車線工事」が完了し、供用開始となっている。

隣接する岩国市周東町西長野から熊毛地区樋口までの区間について、上下線の部分的ではあるが、片側のみ2車線となっている。特に、下り車線については登坂車線の延長が長いため、交通渋滞の解消としての役割を果たしていると思われる。

一方、下松市側は、熊毛地区との市境(※2)について、平成7年に部分供用、花岡バイパス全線(下松市)は、平成17年から全線供用となっている。

なお、周南市西部では、戸田付近を中心に平成23年9月に4車線化整備がされております。(別紙「資料①」、山口河川国道事務所より。H23.9.8受取)



※1(岩国市側へ向けて)

※2(JR 大河内駅付近から下松市側へ向けて)



## (2) 交通量

「平成17年度道路交通センサス」によると、「大字樋口字樋ノ口」、「大字呼坂字西勝間原」とともに、平日24時間交通量が約19千台であり、県内の他の地点と比較しても、決して少なくない交通量となっています。

11年度調査との比較では、3千台程度増加しています。

## (3) 通学路

地域内には、小学校5校と中学校1校があり、その内国道2号線沿線を通学路としている学校は、勝間、大河内、高水小学校の3小学校及び中学校が該当します。

通学経路の指定については、第一に安全面を配慮して指定されていますが、中学校については、遠距離からの自転車通学の割合も高いことから、生徒数の64%が国道沿線の歩道を通行しています。また、勝間小学校においても、児童数の79%に上る高率となっています。

さらに、県立熊毛北高等学校や隣接する下松市、光市の高校への自転車通学生徒も多くみられています。

国道2号線沿線を通学路としている児童・生徒数の状況調査

(2011.9.1日現在)

学校名	該当者 (a)			全校数 (b)			割合 (%) a / b * 100
	男	女	合計	男	女	合計	
熊毛中学校	148	133	281	244	195	439	64.0
高水小学校	9	13	22	71	68	139	15.8
勝間小学校	200	172	372	248	219	467	79.7
大河内小学校	1	0	1	81	95	176	0.6

## (4) 通勤路

国勢調査(平成12年度)によると、本地域に住み他地域で従業している人数は5,377人で、内下松市・旧徳山市・旧新南陽市に通う15歳以上の就業者数は3,644人(68%)となっており、そのほとんどが国道2号線を利用していると考えられます。

### 3. 課 題

---

多くの児童・生徒が通学路として利用している国道2号線の歩道は、一般的に狭小で、転倒防止用のガード等の設置がされていない箇所も多く、道路の片側しか歩道整備がされていない箇所も極めて多く存しています。

通学時に接触事故が数件発生しており、過去には悲しい事故も発生しています。

市民の安全・安心を守り、市民のいのちを守るために、早急に国道沿道の安全整備を実施することが必要となっています。

本地域は、周南工業地域の後背地として数多くの住宅団地が造成され、3,000人を超える就業者が国道2号線を利用して通勤しています。

しかしながら、朝夕の混雑により、通勤時間が通常の数倍以上かかるなど、24時間交通量が19千台にもかわらず2車線であることがボトルネックとなっております。

また、生活用品の買い物・通院等にも欠かせないルートとなっており、4車線に整備することにより、交通の利便性に優れた住み良いまちにすることが必要です。

次に、災害時の観点からは、先の「東北地方太平洋沖地震」(H23.3)など、大規模災害の発生時に備えた物流体制を考慮しておく必要があります。

地震等が発生した場合、現在の2車線では大混雑が予測されることから、4車線化により、人・物の移動ルートを確保することは必要不可欠な要件であるといえます。



周南市呼坂  
(熊毛中通学路)  
徳山方面

中学校前市道～国道に出た箇所（歩道幅 約1.3m）生徒が多くみられる場所。  
歩道が設置してある場合、こういうパターンが一番多い。反対車線側はガードなし。

-4-



周南市大江  
(緑ヶ丘団地入口)  
岩国方面

JR岩徳線の踏切近く（右側）。通行者が多いと離合が困難となり危険





周南市大江  
(緑ヶ丘団地入口)  
徳山方面

反対車線側はガードなし。



勝間駅前付近から  
岩国方面



勝間駅前交差点付近



勝間駅前交差点付近

歩道幅 0.9m

児童が登下校で通る



勝間ミコー付近から

遠見方面

道の両端ガードなし



周南市遠見





周南市遠見

岩国方面



周南市遠見

岩国方面

歩道が狭く、ガードがない



周南市呼坂

熊毛体育センター前

徳山方面

## 4. まとめ

---

本地域において、早期に国道4車線化と併せた歩道等の整備を実現することは、地域住民の長年の願望であり、市民の安全・安心を守り市民のいのちを守るために、最も重要な課題となっています。

また、「住み良いまち・住みたいまち」にするためには、国道4車線化により通勤・通学、通院や日常生活の買い物等がスムーズに行えることが欠かせません。

さらに、近年の被害が甚大化するような大規模災害に対する人・物の移動ルートの確保は、決して先延ばしできるものではなく、行政が早急に取りかからなくてはならない緊急課題と考えます。

よって、国・県並びに関係機関にあらゆる手段・方法により、強く要望していただき、1日も早く整備されますようお願いするとともに、「安心・安全」が最重要であることから、市独自の整備も検討していただきますよう、強く要望します。